

2023年2月期 第3四半期 決算説明会

2023年1月12日



イオンフィナンシャルサービス

証券コード 8570 (東証プライム・その他金融)

1. 第3四半期 決算ハイライト
2. 国内事業の概況
3. 国際事業の概況
4. 今後の方向性
5. 業績予想、配当予想
6. APPENDIX

第3四半期累計 連結業績ハイライト

- ・通期予想に対する進捗はおおよそ計画通り

連結

営業収益

(前年同期比) ('19年3Q比)
3,311億円 (95%)

【収益認識基準 適用前比較】 (103%) (93%)

営業利益

415億円 (94%) (96%)

経常利益

445億円 (98%) (102%)

親会社に帰属する当期純利益

223億円 (100%) (101%)

※本年度より、収益認識に関する会計基準を適用

国内

(前年同期比) ('19年3Q比)
2,063億円 (84%)
 (95%) (96%)

101億円 (56%) (39%)

国際

(前年同期比) ('19年3Q比)
1,251億円 (121%) (110%)

319億円 (118%) (173%)

※国内及び国際の実績は、各事業セグメント間取引における相殺除去後の数値を記載

連結業績進捗率(対通期予想比)

営業収益
74.4%

営業利益
69.3%
 ~**75.6%**

経常利益
74.3%
 ~**81.0%**

親会社に帰属する
 当期純利益
77.2%
 ~**82.9%**

第3四半期3か月 連結業績ハイライト

- ・国内事業はクレジットカード債権残高の回復が計画を下回り、営業利益はマイナス
- ・国際事業は好調に推移し、営業収益と当期純利益は前年を上回る

連結

営業収益

(前年同期比) ('19年3Q比)
1,095億円 (99%)

【収益認識基準 適用前比較】 (107%) (99%)

営業利益

97億円 (88%) (53%)

経常利益

101億円 (91%) (55%)

親会社に帰属する当期純利益

41億円 (99%) (41%)

※本年度より、収益認識に関する会計基準を適用

国内

(前年同期比) ('19年3Q比)
651億円 (85%)
 (97%) (92%)

▲2億円 (―%) (―%)

国際

(前年同期比) ('19年3Q比)
445億円 (131%) (114%)

100億円 (113%) (197%)

※国内及び国際の実績は、各事業セグメント間取引における相殺除去後の数値を記載

<3Q概要>

- ・営業収益は香港 (前年同期比 152%) など国際事業が引き続き好調推移
- ・営業利益はタイ (前年同期差+16億) が牽引し、香港 (同+4億) のほか、カンボジアなどの海外非上場会社も貢献

国内事業（第3四半期累計）の営業利益前年差内訳

・クレジットカード事業は、ショッピングの回復によりキャッシングのマイナスをカバー

	主な変動要因	前年差 単位：億円	
クレジットカード事業	■カードショッピングの回復 - 取扱高：前期比109% / リボ残高：前期差+113億円、期首差+122億円 ■キャッシング取扱高は伸長、残高は前期差マイナス幅圧縮、期首差反転 - 取扱高：前期比106% / 残高：前期差▲118億円、期首差+31億円 ■長期延滞債権の和解推進、貸倒関連費用改善	ショッピング収益	+76
		ポイント・販促費増	▲49
		計	+27
		キャッシング収益	▲26
		貸倒関連費用減	+5
		営業利益	+5
保険事業	■イオン・アリアンツ生命 - 事業展開に伴う営業費用（人件費、減価償却費、販促費等）+13億円	営業利益	▲12
その他	■銀行業貸出金利息の増加 - 住宅ローン等の営業債権残高拡大 ■業容拡大に伴う変動費の増加 - カード発行費、国際ブランドフィー等 ■投資有価証券利息配当金の減少 - 市況環境の変動に伴う減少 ■債権流動化収益の減少 - 市況環境を鑑み、個品割賦債権の流動化を抑制 ■本社機能集約 - オフィスの移転・集約等 ■その他の費用 - 業容拡大に向けたその他費用	営業利益	+11
			▲32
			▲20
			▲12
			▲9
			▲10
		合計	▲79

国内クレジットカード取扱高及び債権残高

- ・イオンカードの券面刷新にあわせて会員獲得を強化し、11月は約20万件の新規会員を獲得

新カードデザイン



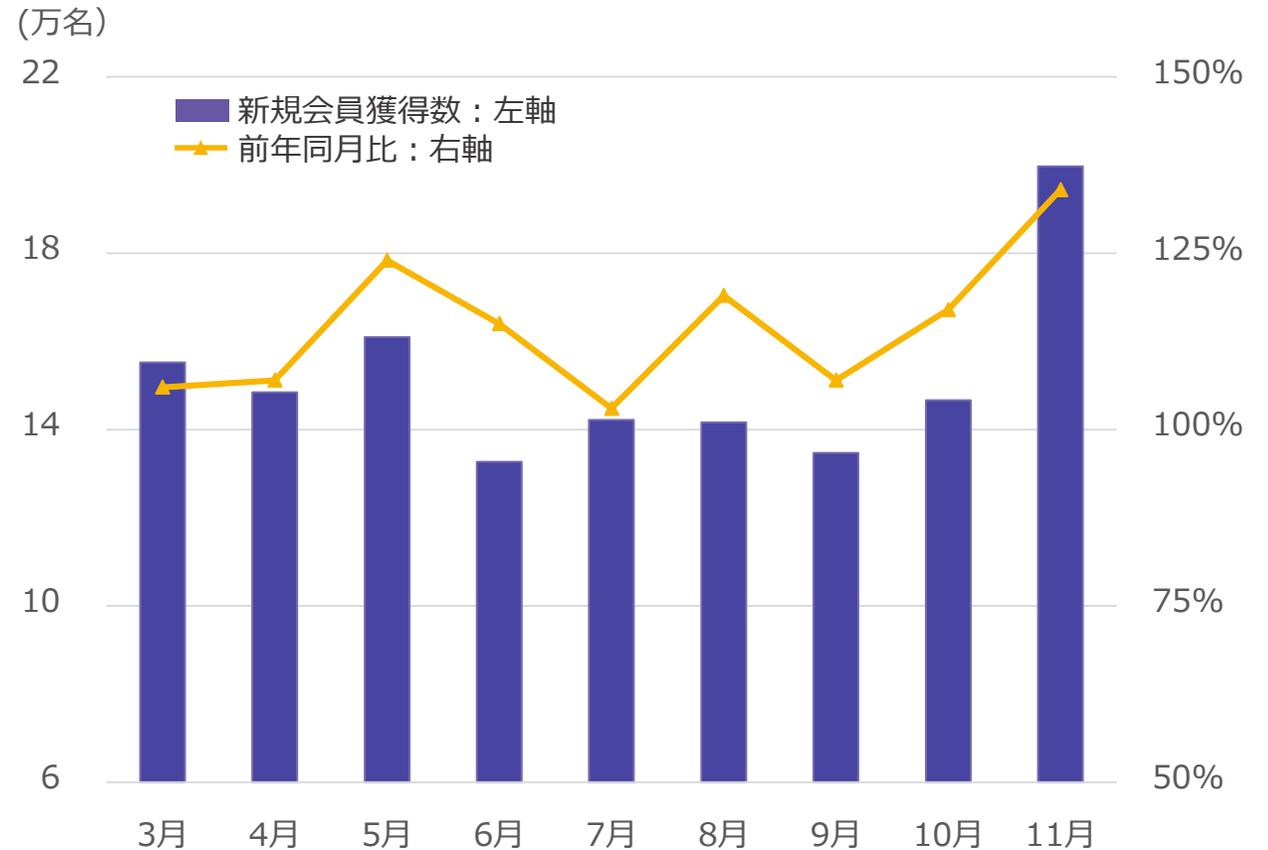
対象のカード新規ご入会・ご利用で

WAON POINT
最大 **11,000**
ポイント進呈! ※適用条件あり

入会金
年会費
無料

お申込期間: 2022年11月1日(火) ▶ 2023年1月10日(火)
(本キャンペーン終了後、同様のキャンペーンを実施する場合があります)

新規会員数の月別推移



国内クレジットカード取扱高及び債権残高

- ・ 会員の特性に合わせた施策により、キャッシング取扱高は拡大基調

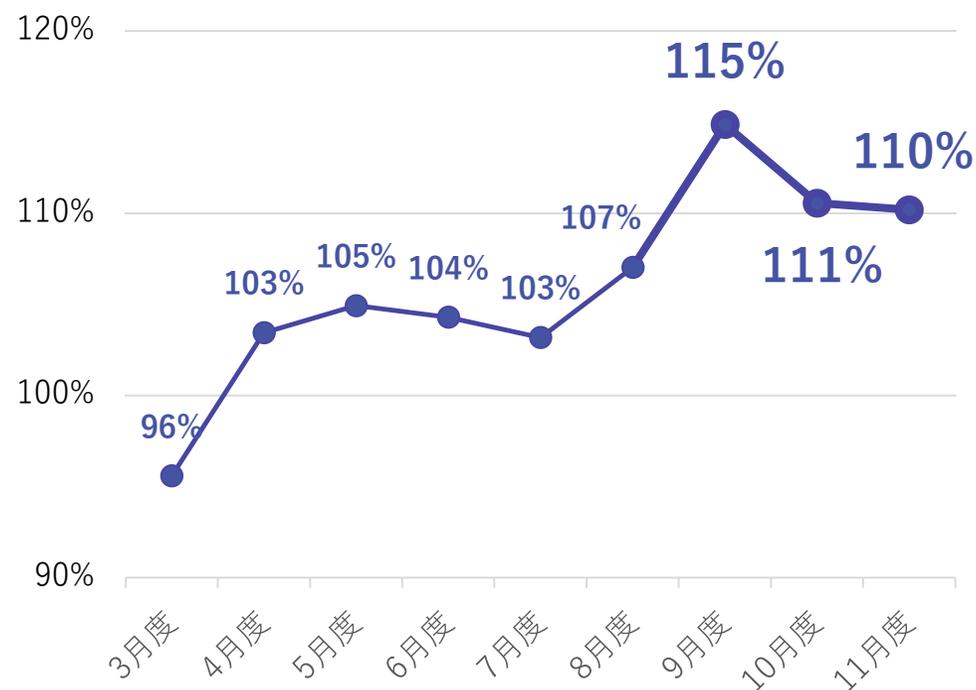
「既存・休眠会員の活性化」

DMによるネットキャッシング利用を訴求
販促効果の高い会員に対しては、アウトバウンドコールも実施

「新規会員の利用促進」

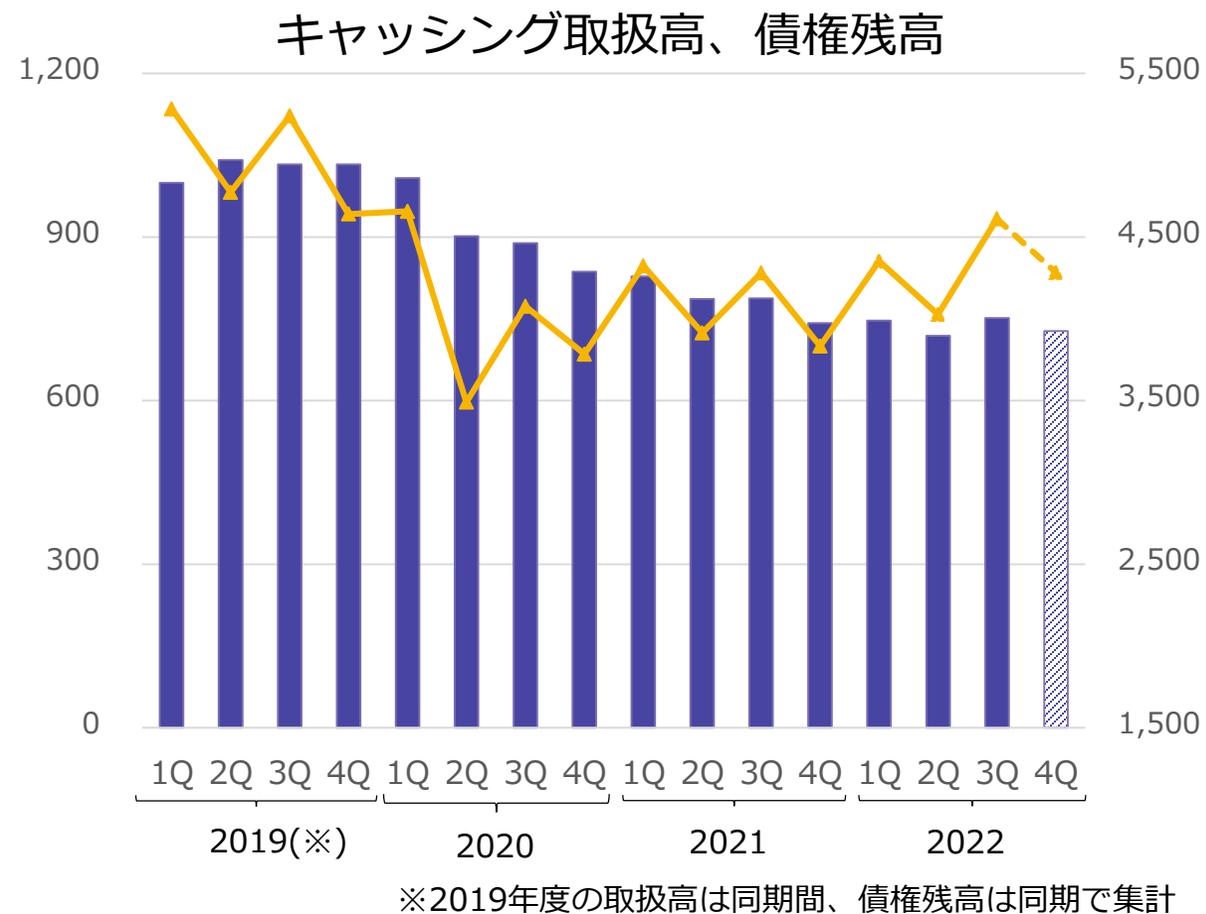
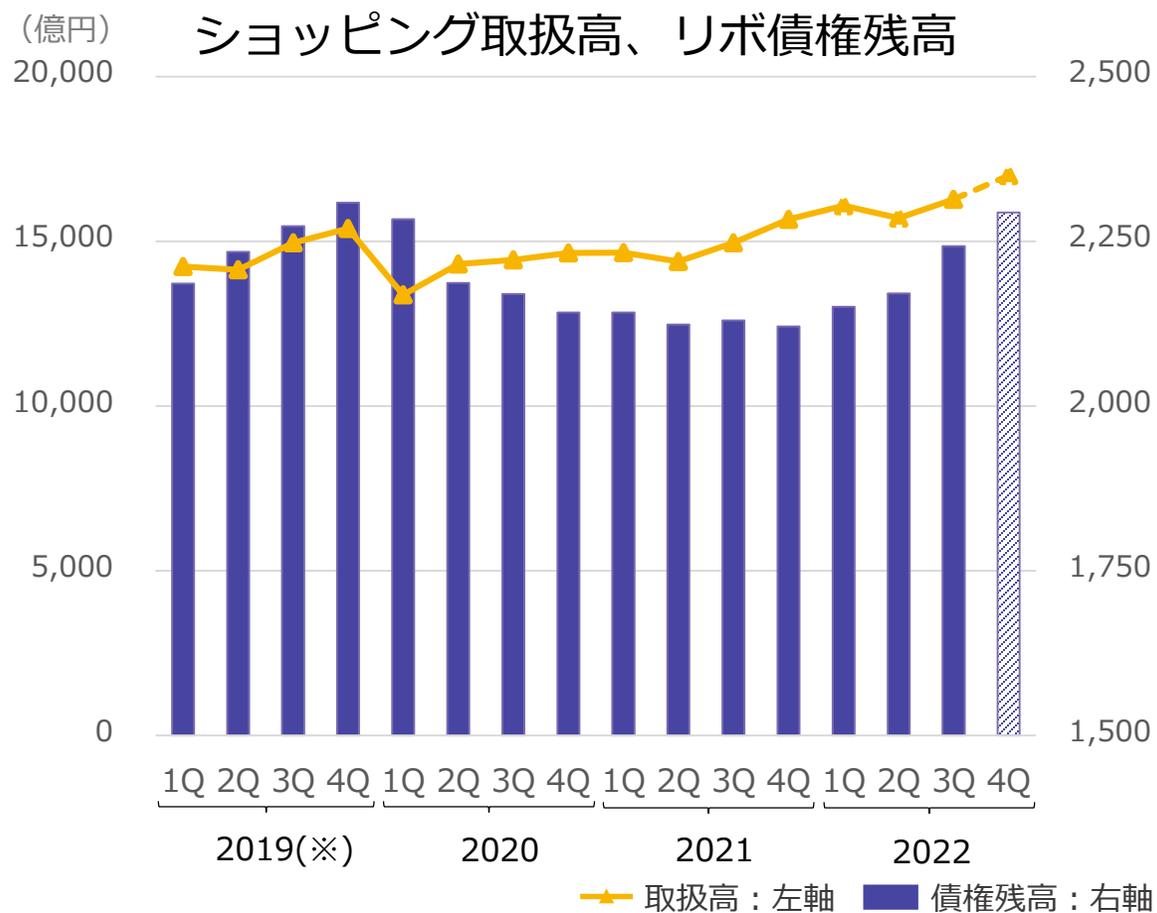
新規会員のネットキャッシング利用割合が高い傾向
Web広告・デジタル配信による、ネットキャッシング利用を訴求

キャッシング取扱高の前年比



国内クレジットカード取扱高及び債権残高

- ・ 家計支出の増加や消費の活性化に対する販売促進を強化、リボ残高は前期末を底に再拡大



資産形成ビジネス（イオン銀行）

- ・イオン銀行の強みである店頭での接客力を活かした資産形成商品の販売プロセスを確立

金融商品の販売チャネル

《イオン銀行のお客さま》



- ・イオンカード会員
- ・投資に関する経験が少ない



店頭でのコンサル営業により
お客さまのニーズを把握
商品特性に合ったチャネルで販売

投資信託・外貨預金

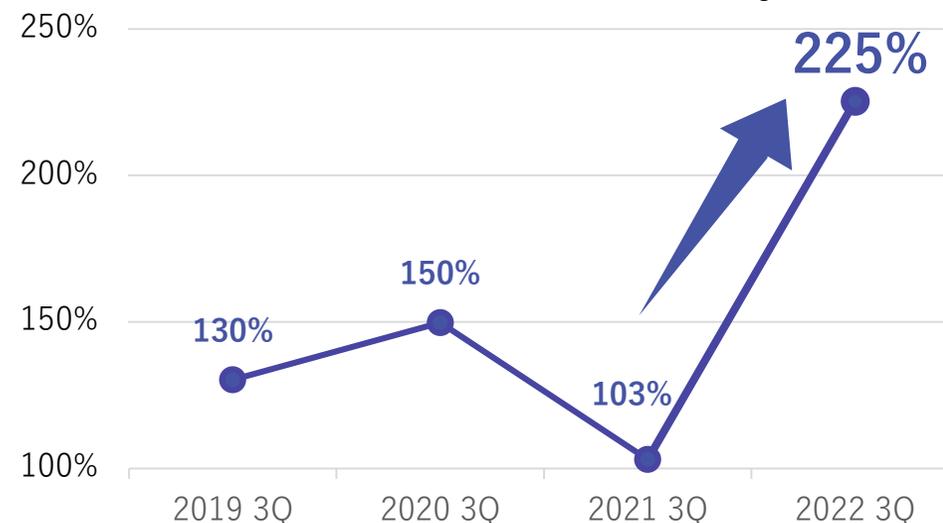
2-3回目以降はWeb購入が中心

保険

店頭での申込

金融商品取扱高※の前年同期比

(※金融商品：投資信託、外貨預金、保険の3Q累計販売)



- 外貨預金：外貨金利キャンペーン施策により取扱高は大きく伸長
- 保険：米国長期金利の上昇の追い風を受け販売好調

3Q累計業績進捗（中華圏 – 香港の状況 – ）

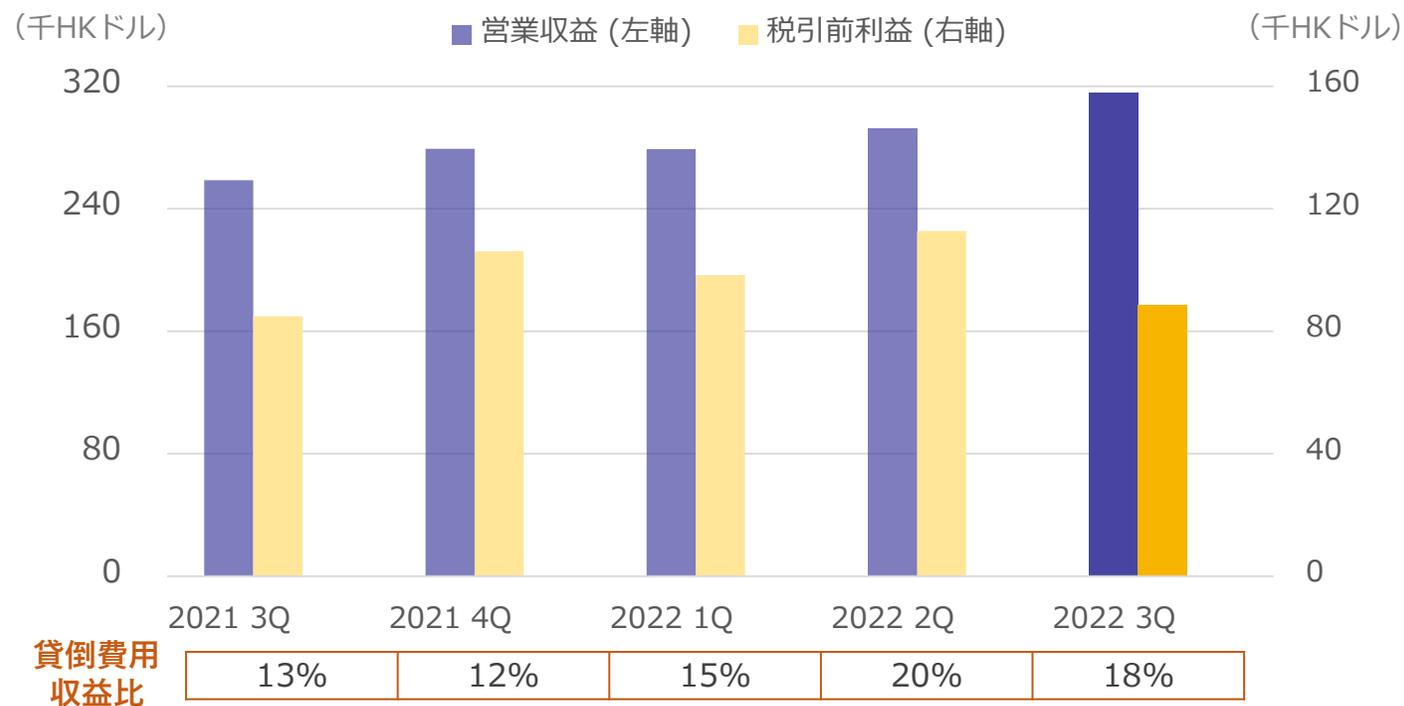
- ・ 営業収益は順調に拡大し、貸倒費用率も低位安定したことで利益は前期比で拡大

（単位：千HKドル）

	3Q累計	前四半期比	前年同期比
営業収益	351,631	108%	122%
税引前利益	88,533	79%	104%

- 行動規制緩和による消費マインド回復を狙った施策等により営業債権残高は拡大
- 足元での回収も好調なことから貸倒費用率も低位安定

営業収益と税引前利益の推移（香港）



3Q累計業績進捗（メコン圏 – タイの状況 – ）

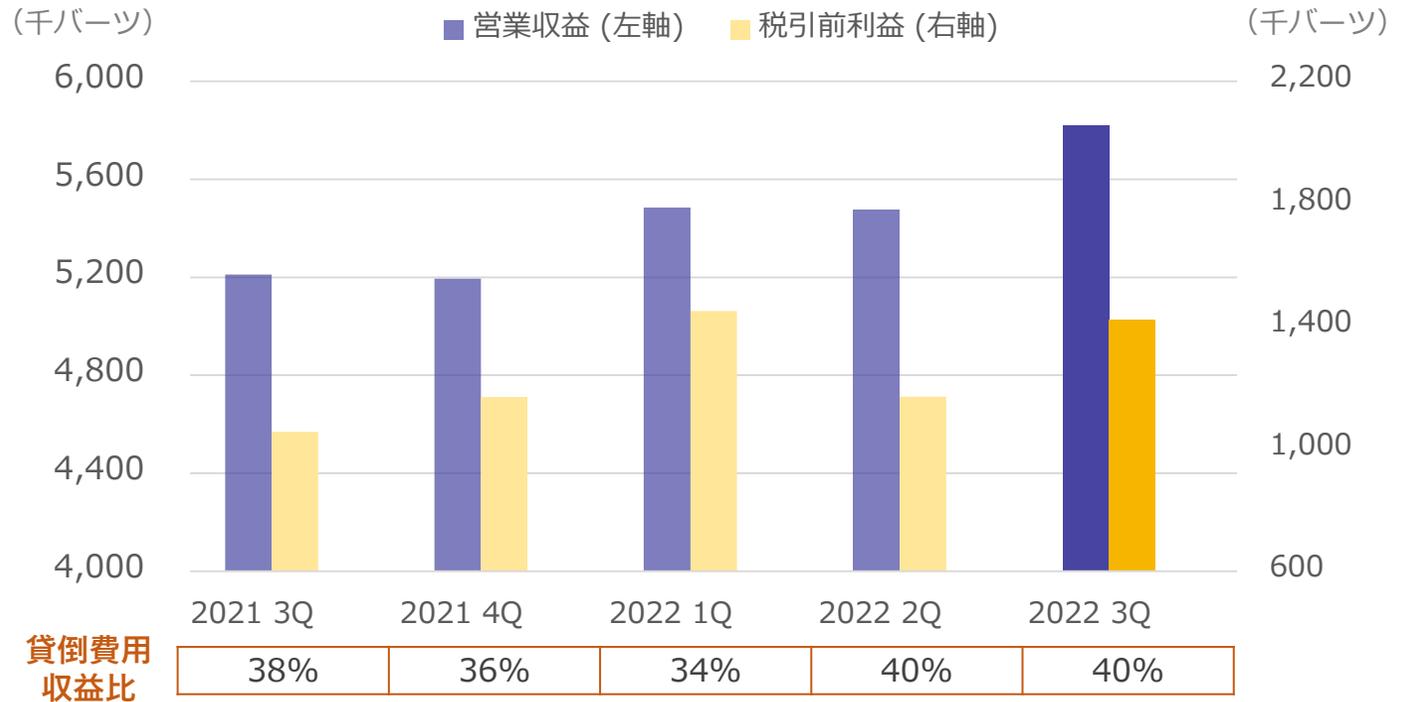
- ・ 営業債権残高の順調な拡大により収益が拡大、貸倒コントロールは安定して推移

(単位：千バーツ)

	3Q累計	前四半期比	前年同期比
営業収益	5,819,506	106%	112%
税引前利益	1,421,015	122%	135%

- 大手ECサイト等の提携先との販促施策によりショッピング債権が拡大し営業収益が拡大
- 旅行者の増加により外部環境見通しは回復していることから、貸倒引当率を見直し

営業収益と税引前利益の推移（タイ）



3Q累計業績進捗（マレー圏 - マレーシアの状況 - ）

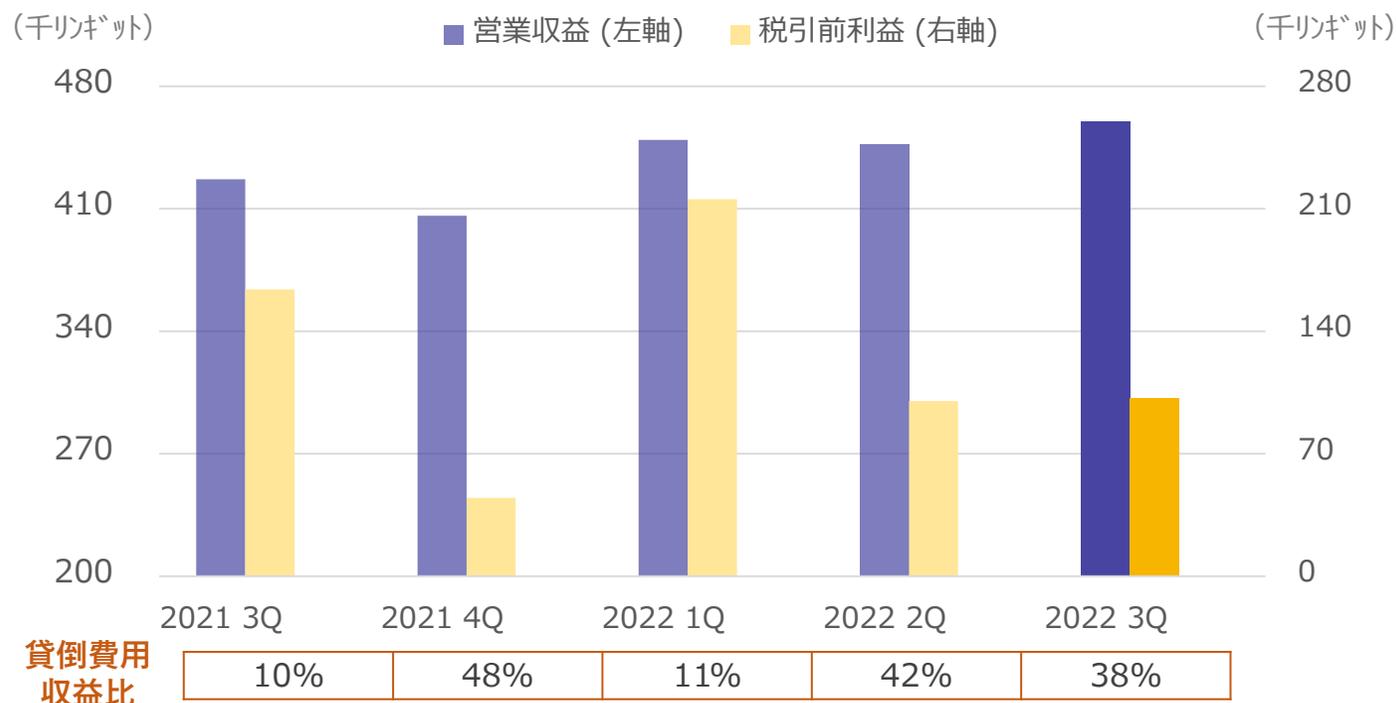
- ・ 取扱高増により営業収益は拡大するも、貸倒費用のコントロールが課題

（単位：千リンギット）

	3Q累計	前四半期比	前年同期比
営業収益	460,040	103%	108%
税引前利益	101,583	102%	62%

- 優良加盟店に対するインセンティブ付与等の施策効果により、営業債権残高は拡大
- 物価上昇等の環境悪化により回収率が低下傾向になったため、二輪ファイナンスの審査を強化

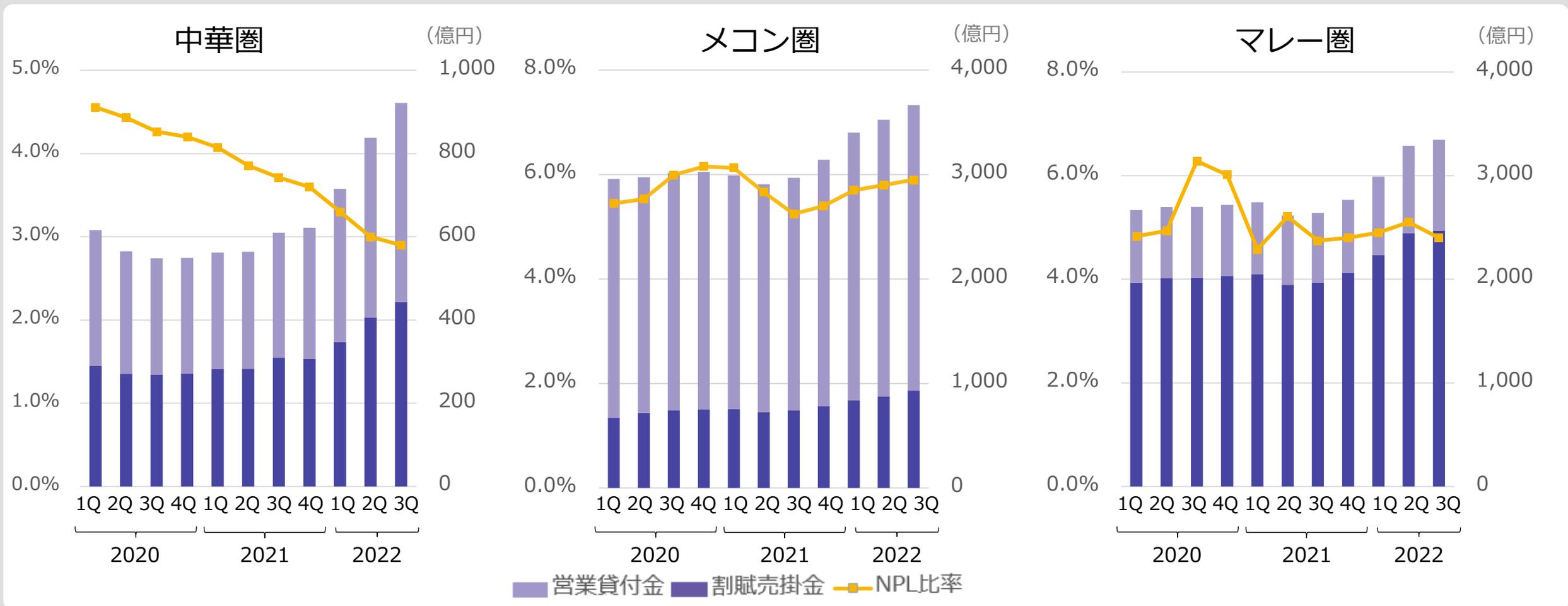
営業収益と税引前利益の推移（マレーシア）



3.国際事業の概況

国際事業の債権残高、NPL比率

- ・ NPL比率はメコン圏で営業債権拡大により上昇も、各エリアで正常範囲にてコントロール



今後の方向性

国内事業 – ID数の拡大

- ・ AEON Payの利用促進と加盟店ネットワークの拡大により、ID数の拡大を図る

AEON Payの利用促進施策

イオングループ内外での利用促進キャンペーンを継続実施

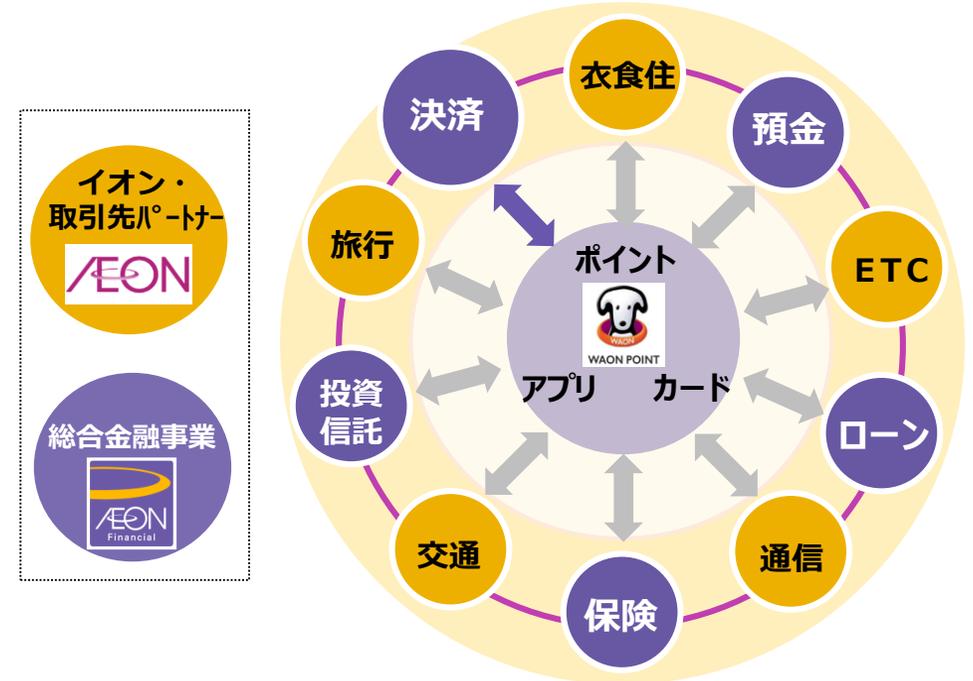
AEON Pay AEON Payが使えるお店ならどこでも

WAON POINT **3倍** 基本の **1.5%** 還元

イオンゴールドカードならさらにおトク!

4Qは“まいばすけっと”でのキャンペーンを通じ、都市部の若年層などに対し、AEON Payの日常利用の浸透を推進

AEON Pay加盟店ネットワークの拡大



< 3Q以降の主な新規加盟店 >

ヤマダデンキ、アルペン、東横INN、JINS、エディオン、松屋、コロワイドグループ、新千歳空港、旭川空港

国内事業再編

- ・ 2023年上期に決済事業を親会社とする事業持株会社に移行、継続して国内事業の再編を実施

期待する再編効果

	再編効果
経営資源の最適配分	<ul style="list-style-type: none">・ 重複機能の解消、集約化・ 成長分野へのリソースの集中配賦
意思決定の早期化	<ul style="list-style-type: none">・ 意思決定プロセスの削減による戦略実行の迅速化
グループシナジーの発揮	<ul style="list-style-type: none">・ クロスセルの推進と決済データを活用したグループ各社の事業戦略の高度化

今後の展望

営業タッチポイントの最適化

その他ノンバンク事業の組織体制見直し

再編を継続し、より戦略実行力の高い組織へ

小売と金融のシナジー施策（住宅ローン）

- ・セレクトクラブの契約者限定特典の拡充など、小売と金融のシナジーを追求した施策を強化

住宅ローンの主な施策

セレクトクラブ特典拡充
(割引適用期間延長・年間割引上限撤廃)

全疾病団信
上乘せ金利ゼロ継続

個別優遇での金利引き下げ

イオンセレクトクラブの特典拡充（'23年3月～）

「ローン完済まで割引適用」

「年間割引上限 無制限」

イオングループならではの施策
他社との競合優位性を確保

イオン銀行住宅ローンご契約者さま限定特典

もっと！
イオンセレクトクラブが
おトクに変わります！

イオンでのお買い物が専用カードのクレジット払いで
住宅ローンご完済まで **ずっと毎日5%OFF** になります！
住宅ローンのお借入れで生活費がこんなにオトクに！

例えば毎月イオンでのお買い物が75,000円の場合							
食費	毎月	+	衣料費	毎月	+	日用品	毎月
	約50,000円			約15,000円			約10,000円

↓

1年間で 約**45,000**円もおトクに！

今までは！
5年間で 約**225,000**円もおトクに！

これからは！
35年間で 約**1,575,000**円もおトクに！

国際事業（中華圏）

- ・ 訪日観光需要回復に合わせた企画の実施とともに、新たな収益源獲得のため保険事業を強化

訪日観光需要の取り込み（香港）

- ・ 日本政府の水際対策緩和以降、香港からの訪日外客数が急増（9月:0.2万人、10月:3.6万人、11月:8.3万人）
- ・ 日本での利用等で還元率を上乗せする20-40代向け新カード“イオンカードWAKUWAKU”は発行開始6か月で5万枚突破



貯蓄型保険商品のコンサル営業開始（香港）

- ・ テレマーケティング/WEBによる医療保障/死亡保障商品に加え、対面でのコンサル営業による貯蓄型保険商品の販売を開始



**中華圏での
保険事業を強化**

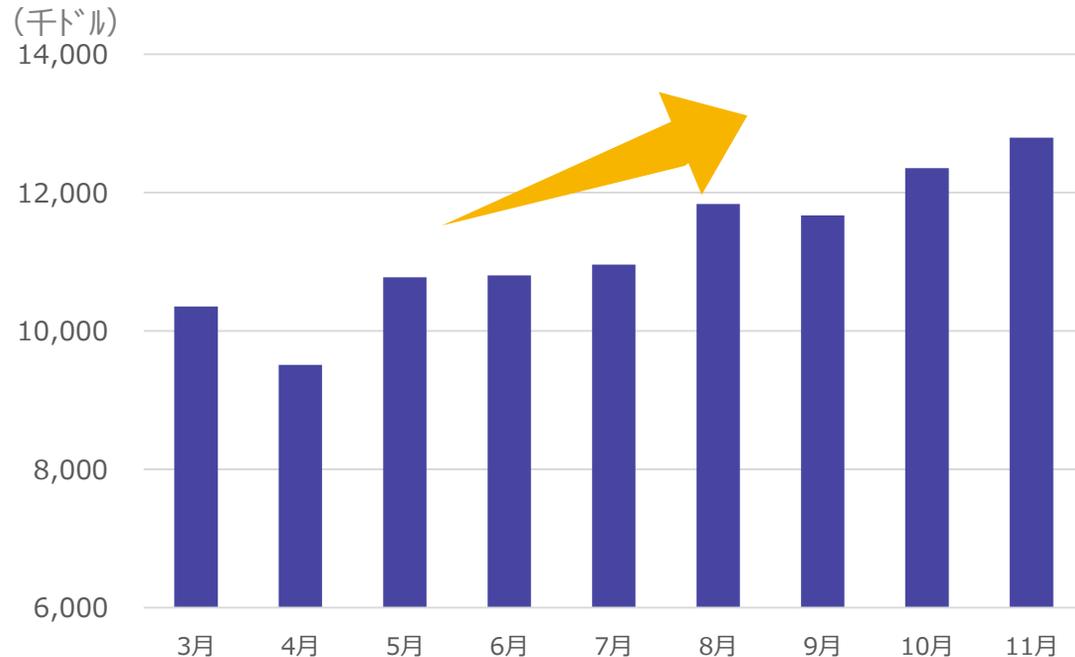
4. 今後の方向性

国際事業（メコン圏）

- ・カンボジアでは下期にかけて取扱高が伸長、タイでは債権管理体制を強化し貸倒費用改善を図る

取扱高の伸長（カンボジア）

- ・国内経済の回復に伴い、クレジットカード事業を中心に取扱高は下期にかけて伸長。ローン事業も回復傾向にあり、さらなる成長を見込む



貸倒改善に向けた施策（タイ）

エリアや職業など属性分析による審査の精緻化

在宅勤務を活用した架電オペレーターの増員

- ✓ 審査・与信枠の適正化
- ✓ 体制強化による回収率の向上

上記2点を実施し貸倒費用の改善を図る

国際事業（マレー圏）

- ・インドネシアでは今後高まる電動バイク需要の取り込み、マレーシアは債権内容の良化を図る

電動バイクの取扱開始（インドネシア）

- ・10月より電動バイクの取扱を開始
- ・インドネシア政府は電動バイク・EVの普及拡大に向けた購入補助施策の導入を検討しており、需要の取り込みを狙う



貸倒に対する今期施策（マレーシア）

小型二輪購入者のうち、
最低貸金以下の顧客などに対する審査を厳格化

大型二輪・四輪の自動審査導入による
優良顧客への利便性改善



- ✓ 審査・与信枠の適正化
- ✓ 優良顧客の取り込み

上記2点を実施し貸倒費用の改善を図る

22年度業績予想、配当予想

- ・金利や物価上昇などの経済環境の不透明感を鑑み、業績予想は変更なし

営業収益^(※1) **連結**
(前年同期比)
4,450億円 (101%)

営業利益
550億円
～ **600**億円 (93%
～ 102%)

親会社に帰属する当期純利益
270億円
～ **290**億円 (89%
～ 96%)

※1 営業収益は収益認識に関する会計基準を適用後の数値

国内
(前年同期比)
2,900億円 (96%)

210億円
～ **230**億円 (81%
～ 88%)

1株当たり配当金 (うち増配金額)

年間**50**円(+4円) 中間：**20**円(+3円)
期末：**30**円(+1円)

国際
(前年同期比)
1,550億円 (112%)

350億円
～ **380**億円 (104%
～ 112%)

配当性向

37.2%
～ **40.0%**

APPENDIX

ESGの取り組み（サステナビリティリンクローンの発行）

- ・2022年11月に香港現地子会社にて当社グループ初となるサステナビリティリンクローンによる資金調達を実施
当社グループが掲げる環境・社会貢献施策に合致した施策として、今後の資金調達にも積極的に活用予定

■ 概要

借入人：AEON Credit Service(Asia)Company Limited

金額：HKD 320,000,000-

実行日：2022年11月30日

期間：3年

<今回設定したサステナビリティ目標（一部）>

使用電力量の削減

コピー用紙の使用量削減

学生に対する奨励金付与

従業員教育に費やす時間

※サステナビリティリンクローンとは

借り手のサステナビリティ方針・戦略と連携したサステナビリティ目標を設定し、金利等の借入条件をサステナビリティ目標達成に連動させることで、借り手に目標達成に向けたインセンティブを与え、環境・社会面において持続可能な経済活動及び経済成長を促進し、支援することを目指すもの。

「収益認識に関する会計基準」適用に伴う影響

- ・ 22年度第1四半期より、「収益認識に関する会計基準」の適用を開始
- ・ 基準適用により、一部の営業収益および営業費用がグロス表記からネット表記へ変更
- ・ 22年度3Q業績では、基準適用前と比較し、営業収益、営業費用ともに連結で268億円、国内で269億円減少
- ・ 主に国内事業の数値組み換えであり、国際事業の数値の変更はなし

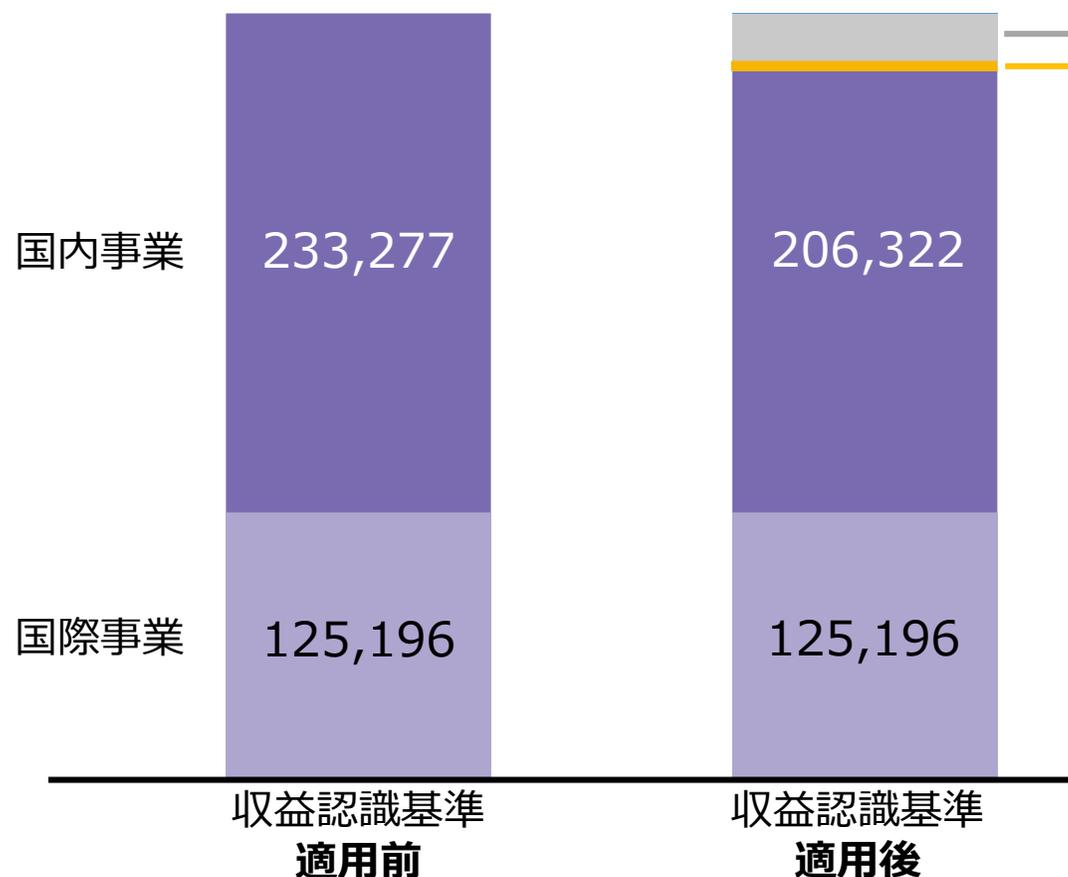
22年度3Q累計実績

(単位:百万円)	収益認識基準 適用前			→	収益認識基準 適用後			差額	
	連結	国内	国際		連結	国内	国際	連結	国内
営業収益	357,978	233,277	125,196		331,150	206,322	125,196	▲26,828	▲26,954
営業費用	316,401	223,084	93,284		289,572	196,130	93,284	▲26,828	▲26,954
営業利益	41,577	10,192	31,911		41,577	10,192	31,911	±0	±0
当期純利益	22,388				22,388			±0	

「収益認識に関する会計基準」適用に伴う影響

- ・ 22年度第3四半期累計実績では、国内カードショッピング収益で251億円、国内電子マネー収益で16億円影響
- ・ 広告宣伝費も同額減少し、営業利益への影響はなし

22年度3Q累計 営業収益 (単位：百万円)



カードショッピング収益 ▲25,156百万円

主にカードショッピングで付与されるポイント費用を、広告宣伝費からカードショッピング収益との相殺表記に変更

電子マネー収益 ▲1,672百万円

主に電子マネー利用で付与されるポイント費用を、広告宣伝費から電子マネー収益との相殺表記に変更

その他収益 (連結消去) ▲125百万円

本社を経由した子会社と外部との取引

第3四半期累計 セグメント別業績

(単位：億円)

	国内計 ※2			国際計 ※2	中華圏			連結計 ※4
	リテール ※3	ソリューション ※3	その他		中華圏	韓国圏	マレー圏	
営業収益	2,063	1,223	1,289	1,251	163	641	446	3,311
前年同期比※1	95%	76%	99%	121%	143%	118%	118%	103%
前年同期差※1	△126	△376	△14	+216	+49	+98	+68	+93
営業利益	101	0	103	319	50	150	118	415
前年同期比	56%	0%	73%	118%	122%	136%	100%	94%
前年同期差	△79	△41	△38	+48	+8	+39	△0	△26
営業利益率	4.9%	0.0%	8.0%	25.5%	30.6%	23.4%	26.6%	12.6%
前年同期差※1	△2.4pt	△2.6pt	△2.8pt	△0.6pt	△5.3pt	+3.1pt	+4.9pt	△0.1pt
親会社株主に帰属する当期純利益								223
前年同期差								+0

※1 国内と連結における前年同期比と前年同期差は、収益認識基準適用前の当期実績と前年同期実績にて算出

※2 国内計及び国際計は、各事業に属するセグメント間取引における相殺消去後の数値

※3 リテールは個人向け中心のビジネス、ソリューションは加盟店向け中心のビジネス

※4 連結計は、本社・機能会社および連結消去額を含んだ数値

【参考】 債権流動化による収益影響額：80億円（前年同期差▲12億円）

国際事業の各種取扱高、債権残高の状況

- ・ 販促施策を強化し、各エリアで継続して取扱高・営業債権残高は拡大

(単位：億円)		中華圏 (香港)			メコン圏 (タイ)			マレー圏			国際事業		
		前年比 (増減)	'19年3Q比 (増減)										
クレジット カード	取扱高	1,298	151%	151%	1,977	153%	107%	369	122%	81%	3,644	149%	115%
	債権残高	718	+229	+194	1,659	+407	+318	230	+23	△15	2,608	+659	+498
個品割賦	取扱高	-	-	-	134	123%	53%	762	168%	106%	897	159%	92%
	債権残高	-	-	-	274	+47	+65	2,249	+455	+462	2,523	+502	+528
個人ローン	取扱高	171	176%	302%	705	130%	82%	343	208%	113%	1,219	152%	100%
	債権残高	204	+83	+53	1,732	+242	+47	867	+226	+148	2,805	+553	+251
合計	取扱高	1,470	154%	160%	2,817	145%	95%	1,474	160%	100%	5,761	151%	108%
	債権残高	923	+312	+247	3,666	+696	+432	3,346	+705	+596	7,936	+1,715	+1,277

第3四半期累計 エリア別業容

(単位：億円)

		取扱高	前年同期比	19年度同期比(※)	営業債権残高 (流動化前)	期首増減	前四半期増減
国内	クレジットカード	50,621	109%	107%	16,319	+1,540	+757
	ショッピング	48,072	109%	109%	12,314	+1,509	+647
	キャッシング	2,549	106%	81%	4,005	+31	+109
	個品割賦	1,476	104%	81%	7,294	+47	+36
	住宅ローン	4,139	88%	99%	33,141	+1,808	+440
	その他	-	-	-	9,597	+337	+79
	国内計	-	-	-	66,353	+3,733	+1,314
国際	クレジットカード	3,644	149%	115%	2,608	+546	+151
	ショッピング	2,625	145%	123%	1,322	+253	+69
	キャッシング	1,019	161%	99%	1,286	+293	+82
	個品割賦	897	159%	92%	2,523	+435	+47
	パーソナルローン	1,219	152%	100%	2,805	+420	+83
	国際計	-	-	-	7,937	+1,403	+282
連結計		-	-	-	74,756	+5,136	+1,610

※国内の19年度同期比については、会計期間が異なる為、今期と同期間で算出

有効会員数	連結	期首比	国内	期首比	国際	期首比	【国内】
実績(万人)	4,810	+79	3,052	+43	1,759	+36	・新規カード会員数136万人(前年同期比+17万人) ・コンタクト決済機能付有効カード枚数1,820万枚(同+542万枚)
							【国際】・マレーシア電子マネー会員数234万人(前年同期比+18万人)

第3四半期累計 海外上場3社業績（現地通貨）

		FY2021 3Q		FY2022 3Q	
		実績	前年同期比	実績	前年同期比
AEON CREDIT SERVICE (ASIA) (HK\$'000)	Revenue	770,280	92%	887,361	115%
	Profit before tax	291,839	106%	299,664	103%
	Profit for the period	243,256	106%	250,314	103%
AEON THANA SINSAP (THAILAND) (BAHT'000)	Total Revenues	15,597,012	96%	16,779,572	108%
	Profit before income tax	3,405,121	108%	4,040,586	119%
	Net profit for the period	2,636,644	109%	3,225,288	122%
AEON CREDIT SERVICE (M) Berhad (RM'000)	Revenue	1,161,912	101%	1,207,581	104%
	Profit before tax	482,031	281%	417,165	87%
	Profit for the period	342,039	284%	322,345	94%

※各社発表資料より抜粋。連結の数値を表示。

第3四半期 海外上場3社業績（円換算）

■イオンクレジットサービス（アジア）連結業績

	2021年度3Q	2022年度3Q	
	実績	実績	前年同期比
営業収益	109億円	151億円	138%
営業利益	41億円	51億円	123%
当期純利益	34億円	42億円	123%

為替レート：1香港ドル

- ・ 2021年度3Q：14.22円
- ・ 2022年度3Q：17.05円

決算期

- ・ 2022/3/1～2022/11/30

■イオンタナシナップ（タイランド）連結業績

	2021年度3Q	2022年度3Q	
	実績	実績	前年同期比
営業収益	534億円	634億円	119%
営業利益	116億円	152億円	131%
当期純利益	90億円	121億円	135%

為替レート：1バーツ

- ・ 2021年度3Q：3.43円
- ・ 2022年度3Q：3.78円

決算期

- ・ 2022/3/1～2022/11/30

■イオンクレジットサービス（マレーシア）連結業績

	2021年度3Q	2022年度3Q	
	実績	実績	前年同期比
営業収益	309億円	363億円	118%
営業利益	128億円	125億円	98%
当期純利益	90億円	97億円	107%

為替レート：1リンギット

- ・ 2021年度3Q：26.60円
- ・ 2022年度3Q：30.13円

決算期

- ・ 2022/3/1～2022/11/30

第3四半期累計 連結貸借対照表

- 2022年度3Qは、営業貸付金、銀行業貸出金、割賦売掛金など営業債権残高が4,886億円増加。貸倒引当金残高は51億円の増加。

【連結営業債権残高の状況】

- ・ 流動化前残高：7兆4,506億円（+4,886億円）
 - 内、国内残高：6兆6,103億円（+3,483億円）
 - 内、国際残高：7,937億円（+1,403億円）
- ・ オフバランス残高（国内のみ）：2兆4,991億円（△13億円）

（単位：億円）

	3Q実績	期首増減
現金預け金	5,914	△1,472
営業貸付金	8,648	+922
銀行業における貸出金	22,480	+1,380
割賦売掛金	18,268	+2,605
貸倒引当金	△1,296	△51
その他	12,221	+66
資産合計	66,236	+3,450

	3Q実績	期首増減
預金	43,325	+1,540
買掛金	2,792	+540
有利子負債 (預金除く)	12,333	+1,458
その他	2,428	△354
負債合計	60,880	+3,184
純資産合計	5,356	+266
負債及び純資産合計	66,236	+3,450

第3四半期累計 セグメント別貸倒及び国内利息返還損失引当金の状況

【貸倒引当金】

	リテール	ソリューション	国内計
期首貸倒引当金残高	54億円	538億円	588億円
貸倒関連費用 (引当金繰入・損失)	▲3億円	134億円	130億円
貸倒償却額 (移管債権等含む)	12億円	135億円	147億円
期末貸倒引当金残高	39億円	536億円	571億円

【利息返還損失引当金】

	2021年度 3Q	2022年度 3Q
期首残高	57億円	64億円
繰入額	0億円	0億円
利息返還額	26億円	24億円
期末残高	30億円	39億円

(国内子会社の期末残高) イオンクレジットサービス：357億円、イオン銀行：39億円、
イオンデータファインズ：78億円、イオン住宅ローンサービス：12億円

	中華圏	アジア圏	米州圏	国際計	連結
期首貸倒引当金残高	26億円	399億円	222億円	649億円	1,245億円
貸倒関連費用 (引当金繰入・損失)	23億円	201億円	109億円	334億円	465億円
貸倒償却額 (移管債権等含む)	15億円	178億円	73億円	267億円	414億円
期末貸倒引当金残高	35億円	422億円	258億円	716億円	1,296億円

本資料のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかわるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定、算出されたものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクをはじめとする様々な不確実要素を含んでおります。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があります。



イオンフィナンシャルサービス